# 「自ら学び、豊かな心を育み
# 実践できる生徒を育てる」

## ～学校・家庭・地域の特色を踏まえた取り組みを通して～


**Ⅰ　教育概要**

1　学校教育目標と経営方針
2　本年度の努力点と達成のための重点施策
3　生徒数
4　職員組織

**Ⅱ　研修の概要**

1　研修主題
2　研修主題設定の理由
3　研修のねらい
4　研修の内容
5　研修組織
6　研修の経過

**Ⅲ　実践内容**

1　人権教育推進部会
2　人権教育実践部会
3　授業分析・調査分析部会
4　授業実践

**Ⅳ　研修のまとめと今後の課題**

1　成果
2　今後の課題

**片品村立片品中学校**

# Ⅰ　教育概要

## １ 学校教育目標と経営方針

(1)基本目標

心身ともに健康で人間的愛情に満ち、自ら考え、正しく判断し、たくましい実践力のある生徒の育成

(2)具体目標

「確かな学力、豊かな心、強い体力」を求め、気づき、考え、実行できる生徒の育成

(3)経営方針

①師弟同行・率先垂範・凡事徹底の精神を基に、職員が組織的に協働することにより教育目標の達成に努める。

②生徒同士や生徒と教師の人間関係、信頼関係の確立に努める。

## ２ 本年度の努力点と達成のための重点施策

(1)学年・学級経営、生徒指導の充実（社会性、自主性・自律心の向上）

・信頼関係を基盤とした、節度と温かさ・生徒一人一人に心の居場所と出番のある学年学級づくり

・諸活動におけるふれあいを通した多面的な生徒理解と共通理解に基づく積極的な生徒指導の推進

・ チャンス相談の活用及びスクールカウンセラーや関係機関との連携の充実

(2)授業の改善と充実（基礎学力の向上、豊かな心の育成）

・授業のねらいと手立て・評価項目を明確にした授業、楽しく学び・身に付く授業の実践

・指導の工夫・改善による基礎的・基本的知識・技能の定着、思考力・判断力・表現力の育成、学習意欲の向上

・校内研修や自己研鑽を通した教員の指導力の向上

・道徳の時間の指導の充実と体験的な活動等を通した、豊かな心の育成

(3)教育環境の充実（潤いのある物心両面の環境整備）

・生徒の人権・人格を尊重する言語環境の徹底（認め、励まし、意欲を高める言葉かけ）

・生徒と教師が一体となった美化活動や奉仕活動の推進

・家庭・地域との連携・交流による落ち着きのある環境づくり

(4)学社連携・融合の推進（開かれた学校づくりと中高一貫教育の充実）

・積極的な情報発信や家庭、地域との連携・協力による信頼関係・協力態勢の構築

・尾瀬高校との連携・協力の充実による尾瀬地域中高一貫教育の効果的推進

(5)安全・危機管理の徹底（安心・安全な学校生活の保障）

・交通事故や生活事故の防止（日常的・計画的な安全指導の継続、安全点検の徹底と迅速な処置）

・いじめはしない、させない、許さないという意識と態度の徹底（人権意識の高揚）

・生徒に危険予測・回避能力をつけさせるための安全教育の推進

## ３ 生徒数

| 学　年 | | １年 | | | ２年 | | ３年 | | | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学　級 | | １組 | ２組 | ３組 | １組 | ２組 | １組 | ２組 | ３組 | |
| 生徒数 | 男 | １５ | １６ | １ | １２ | １３ | １２ | １１ | ２ | ８２ |
| | 女 | １４ | １４ | | １３ | １２ | １４ | １５ | | ８２ |
| | 小　計 | ２９ | ３０ | １ | ２５ | ２５ | ２６ | ２６ | ２ | |
| 計 | | ６０ | | | ５０ | | ５４ | | | １６４ |

## ４ 職員組織

| 職名 | 氏　名 | 担　当 | 職名 | 氏　名 | 担　当 | 職名 | 氏　名 | 担　当 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 校長 | 平賀　信夫 | 経営管理 | 教諭 | 須田　秀昭 | ２年主任 | 養護 | 真船由美子 | 保　健 |
| 教頭 | 小室　昌顕 | 企画運営 | 教諭 | 瀧澤　裕志 | ２年１組 | 特別支援員 | 小林身和子 | ３組補助 |
| 主幹事務長 | 千明　芳夫 | 学校事務 | 教諭 | 津久井聡樹 | ２年２組 | 非常勤 | 金子　友美 | 美術科 |
| 教諭 | 尾崎　和子 | 教務主任 | 教諭 | 吉野　繁夫 | ３年主任 | 非常勤 | 萩原　裕子 | 家庭科 |
| 教諭 | 馬場　英行 | １年主任 | 教諭 | 松井　薫 | ３年１組 | ＳＣ | 茂木恵理子 | 教育相談 |
| 教諭 | 石井　優 | １年１組 | 教諭 | 安藤　千雨 | ３年２組 | ALT | BuhayJorell | 英語指導助手 |
| 教諭 | 青木　理恵 | １年２組 | 教諭 | 野上　和栄 | ３組担任 | 公仕 | 須藤　松子 | 用　務 |
| 教諭 | 髙山　誠 | １年副担 | 教諭 | 小曽根一広 | 全中特配 | 公仕 | 千明　太郎 | 学校施設 |

## Ⅱ　研修の概要

### １　研修主題

研修主題　「自ら学び、豊かな心を育み実践できる生徒を育てる」
副 主 題　　～学校・家庭・地域の特色を踏まえた取り組みを通して～

### ２　研修主題設定の理由

本校では，昨年度まで研修主題を「自己の生き方を考え，主体的に学ぶ生徒の育成」，副主題を「～豊かな心を育み，確かな学力が身に付く授業展開の工夫を通して～」とする継続研修に取り組んできた。

本年度，本校のある片品村は文部科学省委託の人権教育研究推進事業を実施することになり、村の人権教育の研究主題を、「豊かな心を育む人権教育の推進」副主題「～学校・家庭・地域が連携した取組を通して～」とし研究を進めることとなった。それを受け本校では、研修主題を「自ら学び，豊かな心を育み実践できる生徒を育てる」，副主題を「～学校・家庭・地域の特色を踏まえた取り組みを通して～」として校内研修を進めることとした。また、めざす生徒の姿を「自己実現をめざして，努力できる生徒」「互いのよさを認め，互いに支え合える生徒」「正しく判断し，思いやりの気持ちをもって行動できる生徒」とし職員の共通理解を図った。

本校の生徒は，明るく落ち着いた学校生活を送っている。授業や係、委員会活動、毎日の清掃活動など何事にも周りと協力しながら一生懸命に取り組んでいる。与えられた課題は誠意をもって成し遂げられる生徒達である。しかし、授業や普段の生活において、善悪の判断はしっかりできるものの、なかなか行動に移せなかったり、周りに流されてしまったりする場面もしばしば見受けられる。また、学校ではあいさつができるが、地域ではあいさつができなかったりするといった声も挙がっている。

本校の学校教育目標は「心身共に健康で人間的愛情に満ち、自ら考え、正しく判断し、たくましい実践力のある生徒の育成」である。また、PTA活動の目標は「子どもたちをPTAで育てよう」とし、あいさつ運動や環境整備作業など、家庭と学校で連携し多くの活動を行っている。地域との関わりも多く、体育祭で独居老人を招待したり、文化祭において地域の人を講師に招いた「弟子入り講座」を開催したり、新年には「地域ふれあい書き初め大会」を行ったりと、地域の人との交流の場も多く設けられている。これらの活動は、生徒達が授業等で感じたことや学んだことを具体的な態度や行動に現れるようにするために絶好の場であると考えられる。また、学校においては、継続して行っている「友情の絵はがき」「赤い羽根募金」「プルタブ集め」等に加え、生命を尊重する活動として本年度より「花いっぱい運動」などの活動を計画している。

以上のことより、学校・家庭・地域の特色を踏まえ、校内研修において共通理解を図り、家庭や地域と連携しながら研修を進めていくことは、自ら学び，豊かな心を育み、実際の行動として実践できる生徒を育てるために効果的な研修であると考えられる。また、本校の教育目標を達成する上でも、とても大切な研修になるものと考えられる。

### ３　研修のねらい

学校・家庭・地域の特色を踏まえた取り組みを通して、自ら学び，豊かな心を育み実践できる生徒を育てる。そのために校内研修において、人権教育を中心とした取り組みの共通理解を図り、各部会ごとにこれまでの活動に人権教育に関係するものを取り入れたり、新たな活動を考え実践したりする。また、本校で継続して行ってきた一人一授業においても、人権を意識した取り組みを可能な限り行うことによって、指導力の向上と、各教科における人権教育の取り組みを共有していく。

### ４　研修の内容

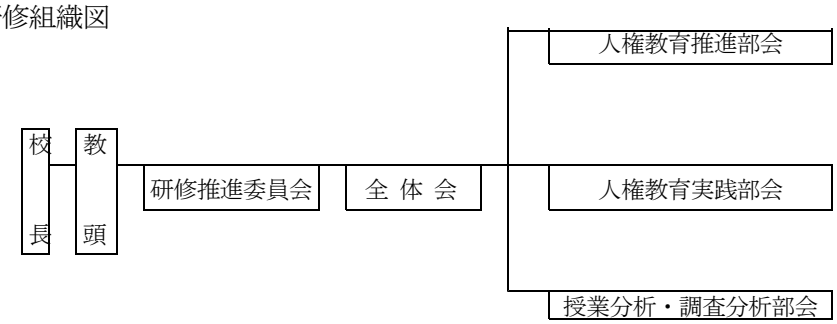
・人権教育を意識した取り組みを、教育活動全般において可能な限り行えるようにする。
・自ら学び，豊かな心を育み実践できる生徒を育成する指導法の工夫・改善に努める。
・一人一授業の校内研究授業等で、可能な限り人権を意識した授業実践を行い，指導力の向上を図る。
・生徒会活動・専門委員会活動PTA活動等において、可能な限り人権を意識した取り組みを行う。
・５月と10月と２月に人権意識に関するアンケートを実施し、生徒の変容をとらえる。

## ５　研修組織

☆部会長

| 組　　織 | 構　　成　　員 | 研修推進上の役割や主な研修内容 |
|---|---|---|
| 研修推進委員会 | 学校長，教頭，教務主任<br>研修主任，人権教育推進部会長<br>人権教育実践部会長，授業分析・調査分析部会長 | ○研修計画の立案<br>○全体会に提案する内容の協議<br>○研修の課題の焦点化等 ○授業実施計画の作成 |
| 全体会 | 全職員 | ○研修内容の確認 |
| 人権教育推進部会 | ☆高山、石井、尾崎、野上 | ○人権教育だよりの発行<br>○人権コーナーの設置<br>○人権月間目標の設定<br>○人権標語の掲示・人権講演会の実施<br>○道徳教材の整理・共有<br>○人権意識に関するアンケート調査（５月、10月、２月）<br>○Q-Uの結果の検証　等 |
| 人権教育実践部会 | ☆津久井、青木、須田、安藤 | ○これまでに行っている活動で、人権教育に関わるものを整理<br>○生徒会や専門委員会活動、PTA活動などで人権教育に関わるものを新たな立案　等 |
| 授業分析・調査分析部会 | ☆松井、馬場、瀧澤、吉野 | ○教科の授業改善の推進<br>○実践例の情報交換　等<br>○学習意欲に関するアンケート作成と分析 |

研修組織図




## ６　研修の経過

指は指導案検討　授は研究授業・授業検討会　□は校内研修，○は部会研修

| 月日 | 内　　容 | 研　修　の　視　点 |
|---|---|---|
| 4. 4 | 1 本年度の研修について | ・前年度の引き継ぎ事項の確認 |
| 4.16 | 2 研修主題・副主題の共通理解<br>①組織作り | ・研究主題・副主題に関する共通理解を図る<br>・指導案の形式<br>・各部会の組織作りと研修内容の決定 |
| 5. 2 | 3 指導主事訪問Ａに向けて<br>①部会研修の研修計画の確認<br>各部会別研修<br>ＮＲＴの結果分析 | ・提出用研修計画書の検討と最終確認<br>・各部会の研修計画案の見直しと共通理解<br>・各部会別研修<br>・生徒の学力の実態把握と分析 |
| 5.28 | 指導主事要請訪問Ａ<br>全職員　授－道徳(1-2)(青木教諭) | ・研修内容に基づく授業実践<br>・研修についての助言と研修の方向性の見直し |
| 6. 4 | 4 Ａ訪問の指導・助言の確認<br>②各部会別研修 | ・研修の方向性の修正<br>・ |
| 6.25 | 5 研修経過の確認と次学期への取り組み<br>③部会の研修経過の確認と次学期の計画 | ・次学期への研修意欲を喚起<br>・部会別研修 |
| 7. 9 | 6 指Ｂ訪問に向けて<br>④部会研修の推進<br>授－社会(3-2)(馬場教諭)（第１～２週）<br>授－数学(3-2)(吉野教諭)（第１～２ | ・Ｂ訪指導案検討<br>・道徳の指導案の作成<br>・研修内容に基づく研究授業・授業検討会 |

| | | |
|---|---|---|
| | 週) | |
| 9. 3<br><br>9.24 | 7 指B訪問の資料作り<br><br>8 指B訪問の資料の最終検討会<br><br>授ー道徳(2-2)(津久井教諭) | ・参観の視点の確認・部会別の質問事項の確認　　〃<br>・研修経過報告書の確認　・B訪指導案検討<br>・部会別の質問事項の確認<br>・研修内容に基づく研究授業・授業検討会<br>〃 |
| 10. 2 | B訪問前日準備 | ・参観の視点の確認・部会別の質問事項の確認 |
| 10. 3 | 指導主事要請訪問B　授ー道徳(3-2)(安藤教諭) | ・研修の修正と，まとめまでの最終確認 |
| 10.11<br>10.22 | 片教研授業交流会　３授業公開<br>9 ⑥B訪問の指導助言の確認<br>10 ⑦研修主題・副主題の修正<br>11 全体研修のまとめ ⑧部会研修のまとめ<br><br>授ー生活単元(3組)（野上教諭)<br>授ー体育(1-1)（石井教諭)<br>授ー英語(1-2)(高山教諭) | ・研修経過に沿った研修主題・副主題の見直し<br><br>・実践してきた全体，部会研修のまとめの確認<br><br>・全体研修，部会研修の修正・研修内容に基づく　授業実践 |
| 11.26 | 授ー技術(2-1)(瀧澤教諭) | ・研修内容に基づく研究授業・授業検討会 |
| 12. | 授ー英語(1-2)(松井教諭)<br>授ー理科(1-1)(須田教諭) | ・研修内容に基づく研究授業・授業検討会 |
| 1.21 | 12 紀要「校内研修の歩み」，<br>⑨「片品の教育」について | ・紀要や研究物の作成確認と分担 |
| 2. 4 | 13 ⑩紀要原稿の作成 年間指導計画作成 | ・紀要原稿と次年度の年間指導計画の作成 |
| 2.18 | 14 紀要原稿の検討<br>15 ⑪本年度のまとめ，来年度の研修の検討　ＣＲＴの結果分析 | ・本年度の研修の成果と課題を確認<br>・来年度の研修の方向性について検討<br>・ＣＲＴの結果分析と活用 |
| 3.18 | 16 引き継ぎ事項の確認　紀要の完成 | ・来年度へ向けての引き継ぎ事項の確認<br>・来年度の研究主題、副主題の原案作成<br>・本年度のまとめ |

**※その他の研修**

| 月日 | 区分 | 講師 | ○内容（上段）・成果（下段） |
|---|---|---|---|
| 5.30 | 「人権教育の充実に向けた取り組みの重点についての研修」 | 講 群馬県教育委員会義務教育課　人権教育推進係<br>石関 和夫氏 | ○学校教育における人権教育について<br>・人権教育の定義、群馬県人権教育の基本方針、充実指針等について再確認できた。<br>・各学校における留意点、具体的な取り組み、構造的指導等について理解が深められた。<br>○総合推進事業について<br>・人権教育総合推進地域事業と人権教育研究指定校事業の定義が確認できた。 |
| 7.9 | 心肺蘇生救急救命法 | 講 利根沼田東消防署の方々 | ○心肺蘇生法とAEDの使用<br>・心肺蘇生の手順とAEDの使用について、一人一人の職員が実践を通して理解することができた。 |

# Ⅲ　実践内容

## １　人権教育推進部会

(1) 部会のねらい

本部会は，生徒がより人権に意識を持ち、普段から人権の尊さについて考えられるようになることを目的としている。そのために、以下の３点を中心に研修を進めた。

①人権だよりや人権コーナー、人権目標等で日頃から生徒が人権について考えられる機会を持てるよう研修を進める。

②人権教育において重要な道徳の授業実践において先生方に役立てていただけるように、道徳資料の整理や収集を行う。

③生徒の実態や変容を知るためにアンケート調査をとり、次の実践に生かす。

↑人権コーナー

(2) 実践内容・実践方法

ア　　人権だよりの発行、人権コーナーの設置、人権目標の設定

６月から月初め及び人権に関わる活動をした後に人権だよりの発行を行った。人権目標は毎月季節や行事に併せて設定し、人権だよりと人権コーナーに掲示した。人権コーナーには人権目標と人権だよりの発行、人権に関わるポスターを掲示した。

| | | |
|---|---|---|
| 月間目標 | ６月 | 誰にでも思いやりをもって過ごそう |
| | ７月 | 仲間と協力して、１学期のまとめをしよう |
| | ８，９月 | お互いに励まし合って毎日を過ごそう |
| | １０月 | 思いやりを持った言葉遣いで話そう |
| | １１月 | 助け合いの心を持って生活しよう |
| | １２月 | 家族の一員として、家の手伝いをがんばろう |
| | １月 | 自分ができることに積極的に取り組もう |

イ　道徳の資料の整理・収集

職員室に設置されている道徳の資料を整理し、先生方が使いやすいように設置した。また資料収集用の棚を用意し、道徳の資料やアイデアを共有し、授業実践に役立てていただけるようにした。

道徳の資料、右が資料収集の棚→

ウ　アンケートの実施・考察

生徒の人権感覚の実態と変容知るために、各学期終わりの７月、１２月、３月（３月は予定）に人権感覚アンケートを実施した。朝学校に来たときから部活動まで時間ごとに分け、またその他の活動についても質問を設けアンケートを行った。以下が２４項目ある設

問のうち７つを抜粋したものである。生徒には「あてはまる」「少しあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の４段階で答えてもらい、数値が低かった項目については、今後の指導に役立てていただけるようお願いした。また、１回目と２回目の数値を比較し、良くなっている部分や改善が必要な部分が分かるようにした。

アンケートの質問（抜粋）

| | |
|---|---|
| １ | 遅刻したり、欠席したりしている仲間のことを気に掛け、声かけをしている。 |
| ２ | 先生や友達に気持ちよくあいさつしている。 |
| ５ | 授業中にグループで行う実験や作業に入りにくそうな子がいたら声をかけている。 |
| １０ | 人の失敗を笑ったり、冷やかしたりしないようにしている。 |
| １４ | 給食を作ってくれた人や命をくれた動物や植物に感謝の気持ちを持って、食事をしている。 |
| １８ | 相手チームや試合の関係者の人たちに感謝の気持ちを持って活動をしている。 |
| ２２ | みんなで使うものは、これから使う人のことを考え大切に扱っている。 |

(3) 成果と課題

【成果】

・人権だよりは定期的に発行でき、生徒の人権に関わる活動を中心にお知らせすることができた。人権コーナーについても生徒のよく通る廊下に設置でき、人権標語の掲示などを通して、徐々に見る生徒が増えてきた。

・道徳の資料を整理することで、様々な実践事例を元に授業研究をしていただくことができた。

・アンケートをとることにより，生徒の実態を的確に把握することができ，指導を要する項目を重点的に指導しながら改善を図ることができた。また、３回行うことで変容を見取ることもできた。

【課題】

・月毎の人権目標を具体的にどう指導に生かしていくのかについての考えや共通理解をより図っていく。

・道徳の資料の共有については、まだまだこれからなので共有資料ボックスをより見やすいものする必要がある。

・人権感覚アンケートについては、Q－Uの検査、道徳性適性検査と重なる部分もあるので、今後の実施も含めて内容を検討する必要がある。

・地域指定のため、、小学校と共通理解が図られた「あいさつ」「返事」について、校内での呼びかけを活発にするとともに、小学校と連携した取り組みも今後検討していくことも考えられる。

## ２　人権教育実践部会

（1）部会のねらい

本部会は，生徒が人権を意識した取り組みを実践していけるよう，啓発していくことをねらいとしてきた。本年度は，片品村の人権教育総合推進地域事業の１年目であり，来年度，再来年度に向けて，実践内容の整理，提案を行っていく期間と考える。

（２）実践内容・実践方法

①これまでに行っている活動で，人権教育と関わりのあるものを整理する。

| 活動（委員会等） | 人権教育との関わり |
|---|---|
| あいさつ運動（生徒会・PTA） | 誰に対しても明るく接しようとする心を養う。また，保護者や教員が登校中の生徒と挨拶をする |
| 清掃活動（各学級班活動） | 各班で役割を素早く分担し，協力して働く大切さを学ぶ。 |
| 朝の全校読書（各学級） | 毎朝１０分間の読書をすることで豊かな心を育成する。 |
| 尾瀬環境ボランティア（各地区） | 下校途中の通学路に落ちているゴミを積極的に拾わせることで地域を大切にする心を養う。 |
| 校外学習（各学年） | 男女協力して班行動することで，協力性，自主性を高めると共に，集団行動や公衆道徳実線の場とする。安全に旅行しようとする態度や社会の人々との関わりから社会性（礼儀など）を身につけさせる。 |
| 合唱コンクール・体育祭・ディスタンス大会（各学級） | それぞれの学級のリーダーを中心に取り組み，総合優勝（金賞）を目指すことで，団結心，向上心を育成する。 |
| ＰＴＡ親子ふれあい環境整備作業（各地区） | 生徒・保護者・教員皆で，生徒が学習する場の環境を整えることの意味をよく考えさせ，日ごろの清掃活動，環境奉仕日の活動などで学んだことを生かし行動する。 |
| ユニセフ・歳末助け合い・赤い羽根募金，ぐんまちゃんメモ帳購入（福祉委員） | 世の中で困っている人のことを考え，金銭的な協力ではあるが，それを通して思いやりのある心を育成する。 |
| 環境奉仕日（美化委員・各学級） | 普段の清掃ではできない窓ガラス拭きやマラソン大会，体育祭前の校庭整備などを行い，校舎内外をきれいに保とうとする心を養う。 |
| 花いっぱい運動（環境委員） | 花を育てたり，見たりすることによって，命あるものを大切にしようとする気持ちを育てる。 |
| 牛乳パックリサイクル（環境委員） | 自分たちの飲んだ牛乳パックが学校で使用するものにリサイクルされることを知ることで，リサイクルの仕組みに関心をもち，環境を守る活動に日常生活の中で参加しているという意識をもつ。 |
| ベルマーク回収（福祉委員） | 「全ての子どもに等しく，豊かな環境の中で教育を受けさせたい」という主旨を理解し，自分たちの学校や社会貢献のために，できることを実践していこうとする気持ちを育てる。 |
| エコキャップ運動（保健委員） | ポリオ等の病気で苦しむ人のことを考え，支援しようとする気持ちを育てる。また，ペットボトルのキャップをリサイクルすることにより，環境を守ろうとする心を養う。 |

②新しく生徒会や専門委員会活動などで，人権教育に関わるものを考える。

・図書室に人権コーナーの設置（図書委員）

→人権教育と関わりの深い本などをまとめて紹介することで，生徒が人権について考えるきっかけを作り，人権への理解を深める。

・放送委員による人権目標の放送

→毎月の人権目標を放送することで，人権目標を意識して生活したり，自分の

生活を見直したりする気持ちを育てる。

（３）成果と課題

今年度は，学校で取り組んでいる活動がどのように人権教育と関わっているのか明確化された。また，これまで生徒が行ってきた様々な活動が，人権教育と深く関わっているということが再認識された。これをもとに，次年度以降さらに意識してこのような取り組みが行えるように，生徒や保護者に啓発していくことが今後の課題と考える。

## ３　授業分析・調査分析部会

（１）部会のねらい

①アンケート調査

生徒の実態を把握するとともに変容をとらえ、研修テーマである「自ら学び、豊かな心を育み実践できる生徒を育てる」を目指し、アンケート調査を実施して授業改善や日常の指導に役立てる。

②授業研究

一人一授業の研究授業を行い、参観者に授業感想用紙へ記入してもらう。その後の授業研究会や感想用紙を日々の授業実践に活かし、主題の達成、教科のねらいの達成を目指す。また、記録として授業の様子を撮影する。

（２）実践内容・実践方法

①アンケート

a.アンケート用紙の作成

生徒がどのような気持ちで学習しているのかの実態を把握するために、学習意欲に関する設問にしぼった７項目のアンケートを作成した。設問は下記の通りである。

| 番 | 質　問　項　目 | 回答(番号に〇) |
|---|---|---|
| 1 | もっと勉強ができるようになりたいと思う | １　２　３　４ |
| 2 | もっとうまい解き方や別の考え方がないか考える | １　２　３　４ |
| 3 | 授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる | １　２　３　４ |
| 4 | 分からない問題があれば、分かるまで自分で調べたり、解いたりしている | １　２　３　４ |
| 5 | 学習したことで，難しいと思ったことは家で復習する | １　２　３　４ |
| 6 | テスト前には，自分から計画的に家庭学習に取り組んでいる | １　２　３　４ |
| 7 | 翌日の授業の予習を計画立ててしている | １　２　３　４ |

**1**：よくあてはまる　**2**：ややあてはまる　**3**：あまりあてはまらない　**4**：あてはまらない

b.　アンケート調査の実施

第１回を６月、第２回を１２月に実施した。

c.　アンケート結果の考察

受験を意識してか、主に３年生の回答に改善が見られ、３や４の項目の回答が減少し、１や２の回答が増加した。学年間での差が現れてしまったので、１・２年生についても学

習意欲を高めるような指導を継続して行うことが必要である。

②授業実践

一人一授業と授業研究会を実施した。また、感想用紙を当日配布し、集約した。実施日、教科、授業者は別掲の通りである。

（３）成果と課題

①アンケートの結果から、生徒の実態を把握することができた。日頃から意識的に継続して、意欲を高める指導を徹底する必要がある。

②授業実践

全職員が１回以上の授業研究を行ったことで、研究主題の達成に近づくことができた。また、多くの職員が参観をし、授業研究会や感想用紙で意見交換を行うことができた。感想用紙をより見やすくするため、記入方法の再考が必要である。

## ４　授業実践

### 実践例１　（第２学年道徳）

**道徳学習指導案**

平成 24 年９月21日（金）第６校時
２年２組　　於　２年２組教室
指導者　津久井　聡樹

| 授業の視点 |
| --- |
| 自分の個性を更に伸ばしていこうとする気持ちを持つために、パラリンピックの選手のすごいところを話し合い、自分に何が必要かを考えさせる活動を取り入れたことは有効であったか。 |

１　本時の学習

(1)　主題名　「前向きに生活しよう」　　１－（５）向上心、個性の伸長

(2)　ねらい　　自己を肯定的にとらえ、自分のよさや個性を更に伸ばしていこうとする態度を育てる。

(3)　準備　　資料、パラリンピックのＣＭ動画、テレビ、ワークシート

(4)　展開

| 過程 | 学習活動と主な発問 | 予想される生徒の反応 | 指導上の留意点・支援 |
| --- | --- | --- | --- |
| 導入<br>５分 | １．<br>〇SUPERHUMANと聞いて、どんな人を思い浮かべますか。 | ・空を飛べる。超能力を使える。<br>・普通の人より優れた能力を持つ人。 | |
| 展開<br>10分 | ２．ロンドンパラリンピックのＣＭ「MEET THE SUPER HUMANS」を見て、ど | | ・パラリンピックと、そのＣＭについて説明をする。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | んな人がSUPERHUMANなのか考える。<br>〇彼らはどのようなところが、SUPERHUMANなのですか。 | ・障害があるのに、すごいことができるところ | |
| 20分 | ３．資料を読み、印象に残ったところについて話し合う。<br>〇印象に残ったところはどんなところですか。また、それについてどう思いますか。 | ・健常者と同じ舞台に立っているところ<br>・「私は障害があるとは思わない」<br>・「メッセージを受け感じてくれている。それがうれしい。」 | ・障害をハンディと考えていないところについての意見を広げるようにする。<br>・意見が出ない場合は、「義足格好良いね」と言われた時の気持ちを考えさせる。 |
| 終末<br>15分 | ４．SUPERHUMANになるためにはどうしたらよいか考える。<br>〇みなさんもSUPER HUMANになれますか。なるためには、今の自分は何をどうしたらよいですか。 | ・何事も前向きに考えて努力する。<br>・できることを頑張る。<br>・欠点ばかりを見ないようにする。 | ・時間があれば、発表させる。<br>評価項目<br>〇自分の個性を伸ばしていこうとする気持ちになっている。<br>（観察・発表・ワークシート） |

## ２　授業を終えて

本学級は、自分の欠点ばかりに目を向けてしまい、後ろ向きに考えすぎてしまう生徒が少なくない。そのため、前向きに自分の個性を伸ばしていこうという気持ちを育むことをねらいとして、障害を持ちながらも、それをハンディと考えずに前向きに努力しているパラリンピックの選手の姿から、自分に何が必要かを考えさせる活動を取り入れた。

パラリンピックとオリンピック両方に出場した選手を取り上げることで、より選

手のすごさを感じられ、真剣に自分に必要なことを考えられたが、障害をハンディと考えていないというところを生徒の意見からもっと意識させることができれば良かった。自分の考えを発表することに消極的であるため、一人一人が自分の考えを口に出せるように、小グループ内で発表させた上で、何人かの生徒に全体で発表してもらうことにした。

## ３　授業研究会から

・前日の人権講演会から、タイムリーな内容であった。もっと講演会での言葉を取り入れても良かった。
・最終的には、教師としてねらったところに、生徒の考えが至っていた。
・「人として、何が大切か」を考えさせることが、大切。生徒の書いたものをどんどん言わせると、生徒それぞれに考えも異なることが明らかになると思う。生徒の考えに、教師としてのつっこみを入れるとさらに良い。
・「SUPER HUMAN」という言葉が少し重い。「SUPER HUMANになるために」より「近づくために」の方が良いのでは。また、なれなくても頑張るということでも良いのでは。
・本時のねらいは「態度を育てる」ではなく、「心情を育てる」。
・導入の発問で、もっと考えさせる時間をとると良かった。
・生徒がどの程度パラリンピックについて理解しているのか。
・グループで、人の発表を聞く・言うことは大切。
・子どもたちの中には、十分SUPER HUMANといえるところもあると思う。導入で、自分はSUPER HUMANか否か、なりたいか否か、なれるか否か、などの質問し、どう変化したかを見ても良かった。

## ４　成果と課題

前日に人権講演会があり、そこでの話と絡めて題材を選んだことで、同じテーマについて深く考えることができた。生徒の発言で「できないと決めつけてやらないのでなく、あきらめずに頑張りたい」という言葉も聞くことができたので、障害をハンディと考えずに、健常者と同じフィールドで戦うアスリートを紹介したことから、前向きに頑張ろうとする心情を育てることができたと考えられる。一方で、SUPER HUMANという言葉や、パラリンピックの選手のすごさが、生徒にとって遠い存在に思える面もあるため、発問を生徒が考えやすいものにしたり、最後は資料から離れて自分のことを考えさせたりするなどの工夫が必要である。また、生徒の考えていることをより引き出すために考える時間を十分に確保することや、一人一人が考えを発表する、友だちの考えを聞く、という機会を多く設けることで、考えを深めていけるようにしていきたい。

**実践例２　（第３学年道徳）**

## 道徳学習指導案

平成 24 年10月　３日（水）第５校時
３年２組　　於　３年２組教室
指導者　安藤　千雨

| 授業の視点 |
|---|
| 病気と闘う子どもの詩を用いたことは、自己をみつめ、自分なりの在り方、生き方について考え、自分らしく生きようする意欲を育てるために有効であったか。 |

**１　本時の学習**

(1)　主題名　「自分らしく生きる」　　１－(５)　向上心、個性の伸長

(2)　ねらい　自己をみつめ、自分なりの在り方、生き方について考え、自分らしく生きようとする意欲をもつ。

(3)　準備　　読み物資料、ワークシート、読み物資料を拡大したもの

(4)　展開

| 過程 | 学習活動と主な発問 | 時間 | 予想される生徒の反応 | 指導上の留意点 |
|---|---|---|---|---|
| 導入 | 1.<br>発問①<br>○あなたは自分と他の人を比べて喜んだり落ち込んだりしたことがありますか。また、人と比べることで、自分の気持ちはどのようになったか、書いてください。 | 5 | ・ほとんどの生徒があると答えることが予想される。<br>・うらやましく思った。<br>・くやしかった。<br>・もっと頑張らなければと思った。 | ・教師が人と比べた具体例を話し発問の内容を理解させる。<br>・生徒に挙手をさせたり、比べた体験について具体的に話をさせたりすることで、意見を出しやすい雰囲気作りをする。 |
| 展開 | 2.　本時の主題を知る。<br>主題：自分らしく生きる<br>3.　資料１を読む。<br>4.　印象に残ったことを発表する。<br>発問②<br>○この資料を読んで印象に残った部分や思ったこと感じたことを発表してください。 | 10<br><br><br><br>5 | 〈印象に残った部分〉<br>・あなただけではないんだよ<br>・自分だけが大変だなんて、そんなエゴなことは考えないで<br>〈思ったこと〉<br>・つらい思いをしているのは自分だけではないのだと思った。<br>・私も「自分だけが大変な思いをしている」と考えてしまうことがある。 | ・高校２年生が作った詩ということを説明し、生徒と年が近いことを意識させる。<br>・「プラス思考」の前半部分を資料１として配る。教師が読む。<br>・印象に残った部分にしるしをつけさせる。<br>・挙手をさせて、自由に発表させる。意見が出ない場合は、指名する。<br>・ |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 5.　上原久美子さんについて知る。<br><br>6.　発問③についてワークシートに自分の意見を書く。<br>発問③<br>○上原さんがこの詩で伝えたい「それだけでしあわせ」とは何でしょう。<br><br>7.　グループで意見を交流する。<br><br>8.　代表者がグループででた意見を発表する。<br><br>9.　資料２を配り、「プラス思考」の全文を読む。<br><br>10.　自分自身を振り返り、ワークシートに書く。<br>発問④<br><br>◎自分らしく生きていくためにはどうしたらいいのか、今までの自分を振り返りましょう。<br><br>11.　発表する。 | 5<br><br><br><br>10 | ・みんなで笑って生活できることが幸せなのだということ。<br>・生きることや笑うことなど、何気ないと思っていることが幸せなのだということ。<br>・どんなにつらくても一人じゃないということ。<br><br>・自分はつらいときにマイナス思考になったりするけれど、自分のいいところを見つけて前向きな気持ちになれるようにする。<br>・苦手なことやできないことがあっても、焦らずに日々少しずつ努力して楽しく生活する。<br>・よく人と比べて落ち込んでしまうので、そんなときは「自分は自分」という思いを大切に自分らしく生活しようと思った。<br>・比べることももっと努力をするために必要だけれど、自分は自分であって才能は人それぞれなので気にしない。 | 上原さんが幼いころから入退院を繰り返し命と向き合っていたことと、同じ病室で亡くなった友人が上原さんを勇気付けてくれた話をもとに詩を書いたことを説明する。<br>・生徒の意見が、前の行の「笑う」という表現に偏る場合は、詩の全体を読んで自由に考えるよう助言する。<br>・席の近い４～５人でグループを作る。<br>・友達の意見もワークシートにメモをさせる。<br>・ワークシートに書いたこと以外にも周りの意見を聞いて考えたことなどを積極的にグループで発言し、意見交流を深めるようにさせる。<br>・「プラス思考」の後半部分を資料２として配る。教師が読む。<br>・資料１と２を合わせて全文を黙読させる。<br><br>・「人と比べて落ち込まないで…つきあっていけばいいじゃない」の部分をとりあげて、発問①で書いた自分自身の体験とねらいとする道徳的価値との関連を意識させる。<br>・今日の授業から、自分らしく生きるということがどのようなことなのかを考えさせる。<br><br>・発表する生徒は挙手をさせる。いない場合は教師が指名する。 |
| 終末 | 12.　まとめ<br>　　教師の逸話 | 5 | | |

(5)　評価

人の生き方から、自己をみつめ、自分なりの在り方、生き方について考え、自分らしく生きようする意欲をもつことができたか。

## ２　授業を終えて

本時は、１つの詩を通して人の生き方を理解し、個人やグループで思ったことや感じたことを発表することで自己をみつめ、自分なりの在り方、生き方について考えられるような授業の展開を工夫した。生徒は、詩に描かれる筆者の心境を理解しようと真剣に取り組んでいた。それとともに、自分自身の今と照らし合わせ、自己をみつめていた。

中学３年という時期は、中学を卒業や高校進学などを通して、自分自身の生き方について強く考える時期であると考えられる。授業を終えて、この授業を行えたことは、そのような発達段階において効果的であったと思うことができた。

## ３　授業研究会から

授業終了後の授業研究会では、次のようなことが話し合われた。

・生徒から様々な意見が出ていた。その中で、自分自身の弱い部分を発表していた生徒がいたが、今後もそのような意見を大切に、授業していくとよい。
・発問３についてグループ交流をしたが、個人で考えさせるのでもよかった。グループ交流をさせるのであれば、上原さんがどのように生きたいと考えたのか、または上原さんがこの詩を書いたときの心の葛藤などを考えさせるとよいのでは。
・資料の分割が適切であった。
・主題を伝えずに授業をしてもよかった。

## ４　成果と課題

本時のねらいは「自己をみつめ、自分なりの在り方、生き方について考え、自分らしく生きようとする意欲をもつ。」ことである。そこで、自己の生命を大切に生きようとする意欲を高めながら本時のねらいにせまりたいと考え、病気と闘う子どもの詩を用いることにした。生徒は今生きられることにありがたさを感じ、今の自分をみつめてつらいことや自分の弱さも受け入れながら向上心をもって自分らしく生きようとする意欲を育んでいた。

授業研究会で話し合われたとおり、今回の授業では発問３をグループで話し合わせたが、個人で考えさせることで詩の内容を個人ではどのようなとらえ方をするのか、生徒自身に向き合わせる必要があったと考えられるので、よりねらいに近づいた発問の工夫が今後の課題である。

## Ⅵ　研修のまとめと今後の課題

### １　研修のまとめ

昨年度は，新学習指導要領で求められている「言語活動の充実」に視点をおき，「基礎・基本を確実に身に付け，意欲的に学習する生徒の育成」を研修主題として１年間取り組んできた。今年度は、片品村が文部科学省委託の人権教育総合推進地域事業を受けたことで、研究主題を「自ら学び、豊かな心を育み実践できる生徒を育てる」副主題を「**学校・家庭・地域の特色を踏まえた取り組みを通して」とし、研究を進めてきた。**その結果，以下のような成果を得ることができた。

○人権教育だよりの発行、人権コーナーの設置、人権目標の設定、道徳資料の整理・収集など、来年度再来年度に向けて、基盤作りをすることができた。
○人権感覚アンケート、授業アンケートを取り、検証することで生徒の変容を客観的に捉えることができた。
○各研究組織ごとに研修を進め、全職員がそれぞれの分担において人権教育に関わる新たな取り組みを行ったり、これまでの活動を整理したりすることができた。
○授業研究会の話し合いのポイントを絞って話し合うようにし、短時間で中味の濃い授業研究会となった。授業研究会が開催できないときは、授業感想用紙を参観者に書いてもらい渡すことができた。
○授業参観を通して，先生方の授業を観る目を養うことができた。

### ２　今後の課題

○人権教育に関わる新たな活動の計画やこれまでの活動の整理など徐々に進めているが、まだ不十分な面があるので、各部会を中心にさらに充実した活動ができるよう進めていく。
○校内掲示の充実を図る。そのために月や週毎にに人権コーナーを新しくするなど、常に新しい情報を発信できるようにし、日頃から人権を意識できるように工夫していく。
○家庭や地域との連携は「一委員会一人権活動」「PTA活動を人権教育の視点から見つめる」など、新しい活動の立案を含めて今後検討・改善していく必要がある。
○授業研究会で話し合われたことを参観できなかった先生方にも配布し，参考になるようにする。
○各授業においては、人権教育を意識した取り組みができるよう呼びかけていく。また、指導案に「人権教育との関わり」の項目を新たに追加する。